



きんたろう倶楽部通信

5号

2007年12月26日発行
きんたろう倶楽部事務局
〒930-0151 富山市古沢254番地
富山市ファミリーパーク内
TEL&FAX: 076-434-1316
URL: http://kintaroclub.net
E-mail: info@kintaroclub.net

2006年4月23日
きんたろう倶楽部結成
2007年11月の会員数: 769名

人びとが暮らすために必要な森づくり。子どもたちがのびのび育つために必要な森づくり。それにはあなたの力が必要です。自然の恵み豊かな富山の里山を、いっしょに創りませんか。

ン積ダンパカ
の荷台内側
に高さ90cm
の板を当てると
荷台容積は約
4㎡となり、
重量は100kg程
で、これが



富山市ファミリーパーク内の空き地に野積みしたチップは、大きな山と なりました。量の目安として2ト

竹は抗菌作用があり堆肥にはならないと聞いていましたが、日清製粉から「竹で堆肥を作る実験に取り組んでみませんか。」と申し出があり、里山整備で発生した竹木を粉砕し、周辺に撒いていたものを活かすことができればと思っただけで実験を始めました。

7月21日から25日まで5日間かけて、呉羽丘陵でモウソウチクの伐採粉砕、搬送を行いました。真夏の暑い最中の作業であり、熱中症対策、休憩場所の設置、ヤブカ対策、昼食時の冷たいソーメンの準備など通常とは少し違う対応も必要でした。作業をする人、裏方としてサポートしていただいた人など、延べ97人の方に協力していただき、実験がスタートしました。

チップシユレクターの騒音と粉塵に悩まされながら、粉砕したチップは約28㎡、富山市ファミリーパーク内の空き地に野積みしたチップは、大きな山と なりました。量の目安として2ト

活動報告

竹チップの堆肥化実験に取り組み



1回の搬送量です。

8月9日、日清製粉から提供された発酵促進剤を混入しました。混入には重機を使う必要があり、協力していただいた(株)富山県建設業協会の関係者の方々にも事前に現場を見ていただき、使用する機種や搬入について検討をしていただきました。

作業工程を確認して、(株)婦中興業の沢オレレーターの手がレバーを動かすバケットが山に突き刺さったのが10時、崩したチップに水を加えながら発酵促進剤を均等に撒き、パワショベルのアームはロボットの腕のように軽快に動きながら混ぜ合わせています。

すぐ脇に2メートルほどの高さに積み上げられた、発酵促進剤混入済みチップからはフスマの匂いと既に少し発酵していた竹の匂いが混じって漂います。堆肥製造で一番問題になるのは異臭ですが、このことについては、事前に問題が無いとの確認をとっていたものの、多少の不安は残っていました。

8月13日、日増しに発酵が進み、堆肥の温度はどんどん上昇してきました。この日の温度は77℃を超え、周囲から「発火のおそれはないのか。」と心配する声が出てきたほどでした。心配していた匂いさほど気になら



2回目の切り返しでは、放線菌の活動している白い部分がリング状に大きく広がっていました。内部のチップは薄い褐色に変わっており、この日は最後の水分を補給してやりました。

9月29日、呉羽丘陵「悠久の森」イベントのひととして、3回目の切

り返しを来園者に観察していただきました。参加者は、堆肥に触れ、ほとんどなくなった匂いを嗅いだり、立ち上る湯気にびっくりしたり、放線菌が一面に広がって発酵している状態を観察して、今まで見たことのない状況に感心しきりでした。

10月に入り、サンプルを成分分析のため日清製粉へ送り、結果を4回目の切り返しをした11月5日に発表しました。熟成途中のものを分析した結果でしたが、良好だという結果が示され、このまま来年春まで寝かせておけば予想以上のものが出来るという結果が出ました。

現在の堆肥の状態は60℃を少し超えた発酵温度を保っており、今後積もった雪が熱で溶けて水分過多にならないようシートで覆う作業が残っています。シートと堆肥の間に竹を挟み、少しでも空気に触れることが出来るように覆い、来春からの利用を楽しみにしながら、冬の間も時々見に行つてやります。(事務局 山田)

10月12日(金) 緑地内森林歩道開設の下準備

14日に実施します緑地内森林歩道開設の下準備を行いました。現地に来たのは2ヶ月ぶりです。8月に草刈をした場所はススキが少し伸びている程度でした。下準備は、開設する歩道の入り口側 出口側までの草刈を行ないました。

10月14日(日) 森林歩道開設

国際電気の子員の皆さんといっしょに、歩道開設を行いました。できた歩道を歩くと、今まで雑木で日陰になっていた場所に、太陽の光が射し込みスッキリとした空間ができました。森林独特の香りもありフレッシュした気分になりました。

歩道の開設は、多くの方に森林に入ってもらい、樹木を知り、森林と自然にふれあえるために是非必要です。

今回の活動を終えて、私自身が感じた事は、

- ①安全作業で無理をしない事
- ②廻りの作業者への気配り
- ③次回の作業目的

草刈地の植栽と保育作業
森林歩道の延長
④森林の意義

以上を認識し、次年度は林産物栽培(山菜、キノコ等)にも挑戦したいと考えています。

早く春になることを心待ちにし、次回も国際電気の子員の皆さん、倶楽部の皆さんと共に頑張りたいと考えています。

大山区森林整備作業

富山国際大学環境サークル代表
黒崎 英亮

9月8日(土)、富山国際大学の環境サークルの学生や教員、きんたろう倶楽部のメンバーで、大学構内にある竹林と雑木林の整備を行いました。当日は曇り空だったので作業はわりに捗った。整備前はかなりうっそうとした林だったが、多くの人が汗を流したことで、短時間で竹林はすっかり変わった。傘を差して歩



るくらいの林がいいのだそうで、そのとりの見本林となり感動した。伐採した竹は、大学祭などのイベント用に使用したり、粉砕して竹チップを作り堆肥化した。来年の春、林の中の様子が今から楽しみだ。

切って燃やして森づくり
〜森づくり塾 受講報告〜
白石 俊明

私はファミリーパーク勤務の中で、ボランティア団体「市民いきものメイト」のみなさんとの竹林整備や炭焼き活動、台風被害木の整理などで、度々チェーンソーを使用してきました。

また、日本の野山に暮らす野生動物、特にサルやクマ、イノシシ達とうまく付き合うには里山林の除・間伐や集落のカキの伐採が不可欠で、

切った木を薪ストーブなどの燃料にすれば、石油の消費量も減らせて一挙両得だと考えておりました。

そんな事をきっかけに、「森づくり塾・チェーンソー作業従事者特別教育(とやまの森づくりサポーターセンター主催)」に、きんたろう倶楽部会員として参加してきました。

2日間の講習は両日とも、安全管理と機器の仕組みなど座学が中心でしたが、一日目にはチェーンソーの目立て実習も行いました。毎日の手入れがされていないと、燃料やオイルを浪費し、自然にやさしくない事、チェーン破損による事故にもつながると聞かされました。ボランティア活動は当日の作業ばかりに目がいきませんが、道具の準備とメンテナンスなど活動日以外の段取りも重視したいと思いました。2日目には森林組合の方を講師に、立木の伐採と玉切りを行いました。プロの技を目の当たりにし、知識ばかりでなく、経験を積み、体に覚えさせる必要性を実感しました。

ボランティア活動は楽しくて、やりがいを感じられる事が重要だと思います。それには事故など決してあってはなりません。講習で学んだものを、今後の活動で、役立てたいと思います。

なお、この講習は今年度より始まった県民一人ひとりが500円を負担する「水と緑の森づくり税」を財源にしているとの事でした。森林ボランティアには参加できない方でも、資金援助という形で森づくりや環境保全活動を支える、とても良い制度だと感じました。

今後の活動予定

- 第2回森づくり講座(富山市の森林について) 1月下旬の予定
- 里山雪上観察会(婦中町大瀬谷・かんじきハイク) 2月24日(日)
- 第3回森づくり講座(森林ボランティア活動について) 3月上旬の予定
- 里山整備(婦中自然公園・竹除伐) 3月19日(水)※下準備 3月20日(祝)